

平成29年3月31日

## 平成28年度の主な事業報告

社会福祉法人ヴィ・リール

尼崎市を中心とする阪神地域において、障害のある人及び高齢者とその家族に対し、地域生活の中で必要なサービスを提供してきました。

### 法人本部

社会福祉法人制度改革に従い、定款の変更等に取り組みました。

社会福祉法人の会計基準に従い会計実務を行い、経営状況を正確に早く把握するために、会計担当職員を雇用しました。また、税理士の助言を受け、拠点区分の見直しの手続きを行いました。(拠点区分が一つになるのは平成29年度からです。)

運営面では、組織と経営の両面において、特に濱村監事より助言をいただきながら取り組みました。法人全体として、事業収支の安定を目標に努力した結果、平成28年度は事業収支の上で黒字決算になりました。組織づくりについては、引き続き今後の課題として取り組んでいきます。

平成28年度は処遇改善加算ⅡからⅠへ変更し、加算率を上げて職員の給与・賞与等の処遇改善に努めました。また、職員指導担当者において、職員の質の向上に向けて指導の取り組み方を検討しています。

### 社会福祉事業

#### 武庫之荘1丁目B拠点

\* 訪問介護(訪問介護事業所ぷらす)

利用者7人、うち 要支援者3人

要支援者が、今後、総合事業の新サービスに移行していくので、その申請手続きを行いました。今後、質を落とさないで支援していける方向を検討していきたいと思います。また、少人数のヘルパーで事業を行っており、事業を拡大していくためにはヘルパーの確保が重要な課題です。

#### 武庫之荘1丁目A拠点

\* 居宅介護(ヴィ・リール生活支援センター)

身体介護: 利用延べ人数 月420~500人、利用延べ時間 月490~580時間

通院介助: 利用延べ人数 月39~62人、利用延べ時間 月71~126時間

居宅介護には身体介護・通院等介助・家事援助がありますが、ヴィ・リールでは現在は、身体介護と通院等介助のみの利用です。身体介護は利用件数は増加傾向にあります。通院等介助は利用件数・利用時間ともに増

加しています。

平成28年度は特定事業所加算の加算要件について検討し、平成29年4月から特定事業所加算Ⅱの指定を受けることができました。

\* 重度訪問介護(ヴィ・リール生活支援センター)

重度の身体または知的、もしくは精神障害があり常に介護が必要である方を対象に自宅での介護を総合的に行うサービスで、現在の利用は、伊丹市の男性1人です。

\* 行動援護(ヴィ・リール生活支援センター)

行動に著しい困難を有する知的や精神障害のある方が、行動の際に起こりうる危険を回避するために利用するサービスで、現在の利用は、伊丹市の女性1人です。

\* 移動支援(ヴィ・リール生活支援センター)

利用延べ人数 月254~309人、利用延べ時間 月663~857時間

社会生活上必要な外出や余暇活動などで、移動中や目的先での支援を受けて社会参加できるようにするサービスです。

ヘルパー不足により、土・日・祝日の利用を受けられないことが多かったため、長時間の利用が減少し、また、全体としても利用件数・利用時間ともに減少傾向です。

次年度は、ヘルパー不足だけでなく、報酬単価の引き下げにより、下半期以降収入が3~5割の減収になり、経営面での対策が必要になります。

\* 特定相談支援・障害児相談支援(相談支援事業所ヴィ・リール)

希望する生活ができるようにサービスを利用するにあたり、基本的な相談からサービスの申請や具体的な利用についての相談を行います。2人の相談支援専門員が担当しており、月8~10人程度の方に対応しています。

伊丹市山田A拠点

\* 短期入所(ヴィ・リール生活支援センター伊丹)

利用人数 月35~44人(1泊2日の利用が多い)

家族の病気等のために障害のある人が自宅で生活することが困難になってしまった場合の緊急利用は少なく、定期的な利用が中心でした。職員が確保できず、週の前半に集中して希望者を受け、週末は休業日を作る等して、職員不足に対応してきたので、希望に添うことができないことも多かったです。緊急時の対応や定期的利用ができるように職員の確保に努めましたが、難しく、職員の超過勤務や休日出勤が多くなってしまいました。引き続き、職員の確保に努めていきます。

\* 生活介護(生活介護事業所カラフル)

利用者数:6人 1日1~4人(定員10人)

草木染・ダイロン染等を中心的な活動としています。また、自宅での入浴が困難な方の入浴支援を行っています。現在、利用者数が少ないので経営的に厳しいですが、平成29年度に利用者が増えます。染めた布を商品化して、利用者の工賃につなげていけるように努力していきたいと思えます。

## 南武庫之荘拠点

### \* 生活介護(生活介護事業所竹の子の里)

利用者数:9人 1日5~8人(定員10人)

紙すき・陶芸・リース・タイル・七宝焼き・つまみ細工等、幅広く商品づくりをしています。新たな商品を開発し、売り上げは上がっています。

家族が体調を崩すことがあり、生活環境の変化にどう対応するかが課題として残っています。

職員体制は、学生アルバイト等の採用もして、安定をはかりました。

## 武庫元町拠点

### \* 生活介護(生活介護事業所アルク)

利用者数:25人 1日15~21人(定員20人)

カフェ、菓子・さをり等の製品づくりや販売を通して、地域・母校の先生・他事業所等の方々と自然な形で交流できています。

製品づくりや販売について、スタッフとサポーターと一緒に相談し、いい商品が作れたときや売れた時にはみんなで喜び共感して、自分たちの仕事として大切にとらえて活動しています。

厨房と相談しながら、楽しくおいしく食べられるように給食を提供しています。

毎月の会議で、読み合わせ等の学習やヒヤリハットについての検討を行いました。

地域の「こども食堂」の活動に参加するようになりました。

### —ジャム・ルガー

医療的ケアが欠かせない人たちは、健康を維持することが優先となり、販売等の活動が難しいときも多いですが、日課の中で工夫して取り組むように努力しています。スタッフ本人たちには、長い間自分の仕事として販売に取り組んできた経験や知識があり、サポーター側に重度の障害がある人たちの労働についての学びが足りないことを実感しています。

## 武庫之荘8丁目拠点

### \* 共同生活援助(ヴィ・リール生活支援センターケアホーム)

入居者数:7人 定員:8人

ホームの仲間たちの平均年齢が40代で、健康面でのケアや医療機関の受診等の必要性が高くなっています。

土・日・祝日のすごし方について検討し、他事業所を利用して移動支援を保障できるようにしました。また、移動支援を利用しないときは、ホームの中で楽しい活動ができるように、調理活動や誕生会、お出かけ等工夫しました。また、平日のすごし方についても職員や食事作りのシルバーさんと共通認識ができるように、利用者紹介文を作成したり、日課について会議の中で検討しました。

平成21年から取り組んでいるケアホームについて、歴史や現在の到達点、課題等についてまとめていこうと考えています。

## 公益事業

### 武庫之荘1丁目C拠点

#### \* 福祉有償運送

平成28年7月から、福祉有償運送の指定を受け、事業を開始しています。  
大きな事故がなく、経費を抑えることができました。

### 伊丹市山田B拠点

#### \* 日中一時支援(ヴィ・リアル生活支援センター伊丹)

日中一時支援事業は、家族のレスパイトや緊急時等のために利用できる泊を伴わないサービスで、1日1~3名の一時的な利用で、短期入所と一体的に運営しています。